

---

# 異常な世界 男子高の物語でBL要素満点ですww

和茶巣

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

異常な世界 男子高の物語でBL要素満点ですwww

### 【著者名】

ZZマーク

N6252X

### 【作者名】

和茶巣

### 【あらすじ】

上陽学園、ここは日本で一番入るのが難しい男子高だ。  
そこに通う男子たちが繰り広げる、物語。

BLです。

異常な世界 一話（前書き）

小泉 春（春）  
こいづみ

誕生日 4/7

高校三年の18歳

周りにはバカって言われているww  
高校一年の弟がいる。

そして、弓道部の部長をやつている。  
クラスの中では成績は下から数えたほつがはやい。  
家は政治関係の仕事をしている。  
誰にでも優しく、クラスの人気者。

## 異常な世界 一話

? 「もうすぐでもうすぐで会えるんだよ。ねえ、早く会いたいな。」

高校三年の初めこんな事が始まろうなんて…

タツタツ

春「ヤバいやばい！あと、五分！…」

ハアハアハア

春「セツセーフ！…」

バンッ

? 「アウトだバカ。」

春「痛！…なつ、セーフだろ！結！…」

結「一分遅れてんだよ。」

春「一分ぐらいいいじゃねえか！」

結「駄目な物は駄目だ！」

春「結のケチ！…行くなら起こしてくれたつていいじゃないか！」

結「バカか、今日は生徒会の仕事ではやくから行へつて言つてただろー。」

春「あーもう！…バカバカうるさいんだよ！…結のバカ！…」

結「チシ、やるのかー？」

タツタツタツ

?「結わーん！…いい加減喧嘩しないで来てください。ここ一歩すばぐ、始業式が始まりますよー！」

結「ああ、」めん空。今からいけ行へよ。」

空「はーーー。」

結「そうだ、おー春ーれ。」

そういうつて結が俺に紙とネクタイを渡してきた。

春「ん？」

結「ん？じゃない。紙は組が書いてるやつ、ネクタイはお前がしないからなー。」

そういうつて、結は俺の首にネクタイを着けてくれた。

結「始業式ぐらーこ、わやんとした服装で来いー。」

春「すまん。でも、サンキュー……あつがとつなーーー。」

ジ

うわ、  
結の後ろから冷たい目線が！

結「空体育館にいくぞ。」

空「はい！ わかりました！」

ヨソ

空一春もさへあと体薦館に来しよ。結わんに恥じかかせたらタタ  
やおかねえから。」

うわーすごい変わりよう

## 異常な世界 一話（後書き）

秋月 結  
あきづき ゆい

誕生日 12/2

成績優秀・運動神経抜群・文武両道とゆづかじい肩書きをかつせりつている高校三年。

春とは、小学校の頃出会ったころからの付き合いで幼なじみ。クールで静かだが、怒ると怖い。

家は上陽学園の理事長や校長、医者などをやっている。生徒会長をしている。

空は次の前書きで書ききます（^○^）／

## 異常な世界 一話（前書き）

野上 空

誕生日 5／14

生徒会副会長

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

家は野上財閥という有名な財閥で世界で一番か一番を争う財閥だ。  
そして、結の事が大好きで、結にだけは敬語を使いつ。  
春たちとは中学生から付き合つようになった。  
岬とは幼なじみ。

## 異常な世界 一話

ガラッ タツタツ

? 「おい! 遅かつたな。寝坊か?」

春「うるせえ、いいだろ! 岬!」

岬「なんだと! 喧嘩売つとんのか?」

空「そこの人たち。もつすぐ、始業式が始まるので静かにしてください!」

岬「つと、始まるみたいだな。静かにするか。」

春「そうだな。」

空「ただいまから始業式を行います。新一年生が入場しますので、拍手で迎えてください。」

パチパチパチ

ボソッ

岬「なあ、春の弟つてこの学園に入つたんだよな?」

春「ああ、一年の代表だったかな?」

岬「マジか！兄弟で大違いだなｗｗてか、Ｓクラス行き間違いない  
んじゃねえ？」

春「かもなｗｗ」

この学園は一年は様子見のため成績順でA～Dの4クラス。  
二年からはその上のクラスＳクラスと言うのが出来る。  
そして、俺ら四人はＳクラスに所属している。

さつさと、おわんねえかな？

結「それでは、先生方の紹介をいたします。」

岬「なあ、また理事長や校長たちは丸投げか？」

春「そうじやねえ？」

「この先生たちは大抵生徒の自主性を伸ばすために始業式などの同  
会は生徒に任せている

結「それでは、一年の先生方から……」

岬「先生だれになるんだろう？」

春「どうせ、また新谷だろ？あいつ先生の中で一番偉いんだろ？」

岬「なんだ。てか、俺あいつ嫌いなんだよな。」

春「俺もだよ。」

結「Aの担任は新谷先生。」

ザワザワ

岬「はあー。マジで！？」

春「毎年、Sクラスの担任は新谷だろ？」

空「静かにしてくだれー！」

結「えー、それではSクラスの担任は？」

春「なんでー？なんでこらんだよー？」

異常な世界 一話（後書き）

鈴岡 岬

すずおか  
みさき

誕生日 9/7

剣道部の部長

こいつもバカと言われている。

春とは最下位争いを繰り広げている。

家は剣道の名門である事情があって、別の仕事もしている。

空とは幼なじみで春たちとは中学生から付き合つようになった。

異常な世界 三話（前書き）

憂騎 零

誕生日 8/17

現在20ながらも上陽学園の先生になることになった。  
学園にいたときはテストは100以外とった事はないくて生徒会長  
をやつていて、結も入学式に強引に生徒会に入れられた。  
今年、Sクラスをもつ事になった。

？「ハロー」一・二の奴らは初めまして！三年の奴らは久しぶり

ダツダツ

春 なへて! なへて  
零かほるのか  
先生はなへたてシ!

零「春！！久しぶりだな！元気にしてたか？てか、たらここにいないだろ？相変わらずバカだなww」

春「バカ言うな！てか、今零つて今年で20じゃなかつた？」

零一 そうだよ。大人の事情だから、詳しくはきくなWW

春「わかつた！」

結「憂騎先生と小泉さんは早く戻つてください。」

零・春「え」!

空「さつさと帰れって言つてんだろ? 五秒以内に帰らないと反省文50枚。もちろん、先生も」

うわ怖！

春「岬、怖かつた！！」

岬「ドンマイ ウウ空は怒りすと怖いからな ウウ」

結「次は、一年生徒代表の挨拶です。」

？「はい。先輩の皆さま方、一年代表の小泉 葉です。」

岬「春、弟の登場じやん！」

春「ああ。」

結「以上で始業式を終ります。」

異常な世界 三話（後書き）

小泉  
こいずみ

葉  
よつ

誕生日 3/26

春の弟

もしかしたら、春より賢い！？

一年代表でAクラスに所属している。

岬の事を師匠とよんでいて、したつている。

春「にしても、疲れた！ なげーよーー！」

岬「始業式はまだ短いほうだろ？ つか、弟くん凄かつたなーー！」

春「ああ、そうだな。」

岬「ん？ どうした？」

春「なんでもねえーよバカwww」

岬「なつー？ お前のほつがバカだろーー！」

？「バカども、ケンカはやめる。」

春・岬「ああーー！」

空「そりだよ、ケンカするなみつともない。」

春「ああー？ なんていった？」

結「うるさいバカ！ バカにバカつていつて何が悪い。」

春「ああー！ それは、ケンカ売つてんのか？」

澪「初日からケンカするなー！ バカやねー！」

結「なつーー?」

春「はつはつはつー 結バカやうひひと言われてるーー」

結「ひみこなーー」

澪「お前らあと五分でホームルーム始まるつてわかつてつか?」

岬「うわー? ほんじだーー やべえー」

空「わかつてたなら、先に言えよーー 濶じやなかつた憂騎先生ーー」

澪「遅れたやつ、殺すからーー よーー」

春「ちよつー?」

澪「じんーー」

異常な世界 四話（後書き）

どーも！

作者ですww

いつもは、キャラ紹介なんですが、新キャラが今回はいないので書けませんww

まあ、後々でる予定ですww

次の予告

三年になつた四人、教室では見慣れた光景がと思ってたら、新しい影が！

次回もみてくださいm(ーー)m

春「はあはあはあつ。」

結「くわつ。」

空「鬼畜すぎるだろー。」

岬「まあ、間に合ったにいいんじゃね？」

春「そうだけど、体育館からここまでダッシュショットwww」

岬「まあ、いい練習になつたとおもえばいいんじゃね？」

結「たしかに。」

空「岬もいいことたまには良いこといつな。」

岬「たまにwww」

春「… なあ？」

結「なんだ？」

春「人変わつてね？」

岬「ほんとに、五人ぐらによつてる。」

空「ある意味お前らが落ちてないのが、不思議だなwww もちろん、結さんは別ですよ！！」

この学校の制度で成績順にクラスの入れ替えがある。だけど、Sクラスのクラス替えは珍しいものだ。

結「見たところ、四人ぐらい転校生みたいだな。」

岬「うわっ！ 転校してきてSクラス行きなんてやべえなwww」

空「というか、その転校生どっちも双子みたいですねwww」

春「ある意味すげえなwww」

岬「ん？ なんか、そのうちの一組が近づいてくるや？」

異常な世界 五話（後書き）

はいっ！

五話の終わりです　ｗｗ

次は二組の双子の登場です！！

次回予定

春たちの前に現れた、二組の双子。  
それも、どっちも何かわけがあるみたい。  
いつたい、春たちになにか関係が？

じんぐうじ  
神宮寺 雅

誕生日 2/12

ある、有名な剣道道場の跡取り息子  
昔は京都に住んでいた。

なので、時々関西弁になる。

髪が長くて女によく間違えられる。

昔岬と何かあつたみたいだ。

棗は双子の弟

じんぐうじ  
神宮寺 棗

誕生日省きます

雅の事をしたつていて憧れている。

髪は短く、顔立ちはきれいだ。

棗は剣道より柔道や空手、体を使つ技を得意とする。

雅は双子の兄

？「久しぶりです。」

？「元氣にしてみたいだな」

結「岬？知り合いか？」

岬「あつ！？ すまん誰だたつけ？」

？「あつ、やつぱり覚えてないですよね。」

？「そりや、10年ぶりぐらいだからな。」

岬「うめん。つか、10年前って何かあつたような……。」

空「珍しいね！ 岬が記憶を忘れるなんて！！」

岬「くそつー、思い出せねえー！」

？「いいんですよ。そのうれしいだしてくれたら。」

？「なあ、雅。忘れられてるなう前についたい。」

春「おおー、頼むなー！」

？「それじゃあ私から。私の名前は神富寺 雅です。隣にいる棗の双子の兄です。」

棗「俺は神宮寺 棗だ！」 隣にいる雅の双子の弟だ」

「おれがひいじいのんなー。ねやんと思ひだすからー。」おれから  
もよひしへなー。」

雅「はい！」

「もう少くない。」

キーンゴーンカーンゴーン

雅「チャイムがなつたので僕たち戻りますね」

空「また、あとでね！」

「やつぱつ、雪のやつぱの記憶消されたるな。」

雅「みたいやな。  
残念やわ。  
けどな、棗獲物が近くにあるやん。

」

棗「やな。 相手は俺らにやがてへんみたいやし。」

雅「すぐに仕留めたんねん。 また、昔のよつに笑顔になつてもううため」。 まつひとつでな、岬はん

裏側  
W  
W

春「なあ、今回俺ら出番少なくなねえか?」

結「だよな。」

春「これからは、結の出番は多分くると思ひます（b.y.作者）だつてやややや」

結「なんだつて！？」

春「お前、ある意味主役でき立場なのになWW」

「くそっ！ どうせ、今出てきた新キヤラをいつぱいだすんだろ」

春「みたいだな WWW」

結「はあ、最悪だ」

春一 けど、俺はいつでもお前を見てるから」

力ア  
〃  
〃

結「急になつたにいつてんだ！」

春「顔真っ赤だぞwww」

結「うひうぬせーーー！」

春「かわいいなwww」

結「やめろーーー！」

空「まあ、こんな風に時々出番が少ない人が喋るみたいですね。  
まつ、気が向いたらみてくださいねwww」

# キンコーンカーンコーン

春「やつと、全部終わつた！」

結一 お前はまだ寝てただろ！？

春「バレたか？」

あと、これから部長会議があるから岬に言  
結「当たり前だ！！  
つしてくれ。」

春「了解」

結「お前も忘れずに行けよ!」

春一わかってるって！」

結「先に行つてゐからな！」

春「岬」！」

岬「ん？」  
なんだ？」

春「ここのあと、部活会議があるから来いって結が言つてたぞ。」

岬「おおつー、マジかんじや、一緒に行くか?」

春「そだな」

春「でさわ 結の奴が朝起こしてくれたのに、先に行きやがったんだよ!」

岬「乙www」

春「一言だしwww」

プツンッ

岬「！！」

春「ん? 岬? じした?」

ポンッ

岬「わりい www 大切な用事があつたって言つた今出来たから行つてくる!」

春「はあ!? なにいつてんだ? これから会議だぞ?」

タツタツタツ

岬「変わりの奴に行くように行つてくれ！」

春「おいつー ちょっと待てってーー！」

岬「用事つて言つとけよなwww」

春「おいつ！ つて聞こえないよな。」  
用事つてなんなんだよ。」

異常な世界 七話（後書き）

キャラの感想ww

空「急に岬用事つて走りだしましたね。」

結「ほんとにな。」

空「何処に行くんでしょう?」これから会議つて言つのに。」

結「俺が春の立場なら追いかけただろうつなww」

空「わすが結さん! それじゃあ、僕とゆづ存在を追いかけてくれませんか!?」

二口

結「…………。」

空「ああ! その笑顔たまんないです! 一 結さん  
バツ

サツ

結「抱きつくな!」

空「冷たいですね。 そんな結さんの事が大好きです。」

結「はあ、勝手にしつけ。」

空「ありがとうございます！一生ついていきますーー！」

春「次回予告は俺が貰つた！」

次回予告

急に走りだした岬。大切な用事つてなんだよ。  
こっちの会議も大切だろ！  
そして、岬が倒れる！？  
はあ、なんだつて？  
まあ、次回も見てくれよな

今日は岬視点です。

ガチャ

やつぱり。

結界が破られてやがる。

俺は皆にある事を隠している。

それは、特別な仕事をしている事だ。

特別な仕事とは空を守る事だ。

空は特殊な体質で昔から変な物。

つまり普通の人には見えないやつらに襲われるという体質を持つている。

それが、五代に一度野上家の血縁者に現れる。

そのため、俺ら鈴岡家は野上家のボディーガードをしている。

空にはまだその事を知らせていない。

今はまだ、平和に過ごしてほしいから。空にこれ以上の負担をかけたくないから。

ちつ！

俺が作つた結界は誰にも破られた事は無いのに。  
だれがやつたんだ！

バツサツバツサツ

まあ、とりあえず仕事みたいだな。

キエーツ キエーツ

いつ聞いても不可解な音だな！

「お前らがいるから空が安全に生活できないんだよー。」

グシャツグシャグシャツ

ふう、やつと終わった。

たく、なんでこんなにいるんだよー！  
こいつらが、結界を解いた？

あり得ない。

いつものやつとかわりない。

じやあだねが？

まあ、また結界を張り直さないとな。

？「なあ？ 僕それをやらると困るんだけど~~~~」

岬「ああ！？ 誰だ！ 」ここは誰も入れないはずだぞーー。」

次回

岬の結界を破つたやつが?  
どうなる岬!?

? 「誰か？ 覚えてないの？ つまんないな WWW」

岬「はあ？ お前なんかしらねえよ… とりあえず、お前が結界を  
破つたみたいだな！！」

? 「そうだよ WWW てか、あの事を覚えてないなんて、都合よすぎ  
ない？ 最低だね。」

「こつなんの事をいつてんだ！？」

岬「つるるれこ… とりあえず、お前を倒す…！」

ダツ  
カキンツ

? 「熱くなんなつて WWW いつものお前らしくないぞ？ つてだい  
ぶ昔の話だけど WWWWW」

昔？ 僕はこいつと戦った事なんて…。

岬「つるるれこ黙つて…。」

? 「ほんと」。 残念。 世のほつが殺りがいがあったのに……。」

ガギンツ

岬「なつーー?」

俺の持っていた木刀は弾かれてしまった。

? 「ほんとに何にもわかんないみたいだし、全部……。いや、自分がどれだけひどいか教えてやるよ~~~~」

岬「なにをいつて……。」

? 「お前は仲間を捨てて、守るべき空をも捨てて、自分だけ生き残つたんだよ~~~~」

俺が仲間を捨てて、空をも捨てた?  
ここつなにをいつて……。

岬「……あつーー。」

? 「思い出してきたようだね。」

岬「そ、うだ。俺はあのときー。ああああああーー。」

思い出した……。

俺は空を仲間を見殺した……。

自分が弱かつたから？

いや、違う。

自分を守りたかったから……。

俺はなんてことを。

? 「ん~。 今の君を倒したって、面白くなさそうだねww じやあ、待つてあげる君が全部思いだして昔の力を取り戻したらねw w その前に空は返して貰うから。」

ガツ

俺は相手の足をつかみ、声をあげた。

岬「俺は空を守るんだ！ 昔のようにならないために！！」

? 「残念。 今は無理ww それじゃあお休みなさいwwww

ガツ

岬「グハツ！」

俺は腹をおもいつきり蹴られた。  
意識が遠くなっていく……。

岬「そつそらをつれて行かないでくれ……。」

ガタツ

? 「ごめんね。 鈴岡くん……。 空は俺らひとつてはかけがえのない人だから。」

俺はその言葉を聞いてから気を失った。

氣を失つた岬！  
どうなる？

んつ？

「こ」は、ど「こ」だ？

ベッドの上？

保健室かな？

？「お」つ！ 岬田が覚めたか！…」

んつ？

この声は春か？

岬「おお、大丈夫だ。」

春「屋上でお前が倒れてたからビックリしたぞ！…！」

岬「ああ、『めんな。』

春「大丈夫なのか？」

岬「ああ、ただの過労とストレスだよ。」

春「ほんとうに、お前は……。」

岬「そんな顔をするなwww お前りじくないぞwww」

バンッ

岬「痛つ！…」

春「おいつー？ 空なにしてんだ？」

空「なにって、呪いたんだよ。」

春「はあ！？ 意味わかんねえ！！ 岬は今病人なんだぞーーー。」

岬「春いいよ。」

春「いいわけないだろー。」

空「春、一回外に出てくれる？？」

春「なんでだよー。？」

岬「春、頼むから。なつ？」

春「なつ…。岬が言うなら…。」

岬「ありがとうな。」

ガラツ  
バンツ

岬「空、春は行つたぞ？」

空「……バカ。」

岬「うめん。」

ああ、また空を泣かしちまつたな。

「空？ おいで。

バツ

空は素直に俺の腕の中に入つた。

そして、俺にバレないようになのか、息を殺して泣いている。

岬「俺は何処にも行かないから泣くな。」

空「泣いてねえよ！ つか、お前は俺に内緒で働きすぎなんだよ  
！！ たまには、俺を頼れよ……。」

岬「しめん。毎回お前には心配かけるな。わかつた、お前には  
出来るだけ頼るようにするから。だから、お前は泣くな。なつ  
？　かわいい顔が台無しだぞ？」

「うるさいバカ岬……。」  
「もう、倒れたり俺のそばを離れたりする  
な……。」

岬「わかった。それじゃ、お前も俺のそばを離れんなよ?」

空「わかった。」

岬「素直でよろしく。」

空「グスツ といあえず、まだ生徒会の仕事あるから行く。」

岬「わかった。 気をつけて行けよ。」

空「お前は無理せずに休んでけよ。」

岬「了解。 あつ、なあ雅と棗みたら、来るよ」と言つてくれ。」

空「わかった。 じゃあな?」

岬「おつー。」

空、ほんとうに俺のそばを離れないでくれよな?

春「おいつ わ わ 結なにいじけてんだ?」

結「なにって、俺の出番かすぐねえんだよーー。」

春「しゃあねえじやねえか わ わ わ わ わ」

結「はあ、出番が欲しい。俺だつて、最初は重要な人物だつたよな?」

春「まあな わ わ お前はまだいいよ わ わ 俺なんか、主人公的なポジションだつたんだせ わ わ わ わ」

結「そうだよな。」

春「なんで今は岬が主人公みたいな事にー!?」

結「えつと、ごめん。」

春「謝るな、つらくなる。」

結「ほんと?。」

憂「つてこんなネガティブなやつらなんかほつといて次回予告言つ

わやこまむ  
」

次回

岬が雅と棗を呼んだ理由とは?

次回をお楽しみに

つて、俺が一番出番ないんだけどな…。

## 異常な世界 十一話

岬「はやく一人じゃないかな?」

なぜ、俺は一人を呼んだかと言つて、一人は俺たちと一緒に戦つた仲間だつからだ。

一人に記憶を思いだした事を喋つうと思つ。

そして、許してもらえないかもしれないがあの事を謝ひつと思つ。

ガラツ

雅「岬さん呼びました?」

棗「なんだよ! 俺らがいんだが!」

雅「こらつー そんなこと言つたな! 墓さんはただでやべつてどいんだから!...」

岬「ああ。 大丈夫だよ雅。 それより、お前に口言わなければならぬ事があるんだ……。」

雅「えつ? 何ですか?」

棗「くだらない事だつたら怒るからなー!」

岬「ああ。 あのな。」

棗「なんだよはやく言えよー!」

雅「！」ひつー。棗ー。」

岬「俺、すべてを思い出したんだ。あの時は『めん…。許してもらえないかもしれないが、謝つておぐ。』

雅「ほんとですか？」

棗「岬。記憶戻ったのか。」

岬「ああ。そして、今空が危ない。棗、空を監視してられないか？」

棗「空さんが！ わかつた。なんかあつたらすぐ連絡する。」

棗たのむわ…。

そして、俺は雅を見たら雅は泣いていた。

岬「なつーー。雅じうしたー。」

雅「嬉しいんです…。岬さんが昔の事を思い出してくれて…。」

岬「今まで『めんな？』

雅「いや、いいんです。岬さんが記憶が戻った事だけで十分です

…。」

そういうで、雅は笑顔になつた。

岬「そつそつ、お前にほつと頼みたいことがあるんだ。」

雅「はい！ 何ですか！？」

岬「まづ」つは、昔のしゃべり方に戻つてくれないか？ お前らが標準語だと調子狂うんだ」

雅「わかりました。 それじゃあ、言い方に戻りますね。」

岬「ああ、頼む。 そして、2つこれが本題だ。」

雅「何ですか？」

岬「記憶がもどつたと言つても曖昧なんだ。 それを教えてほしい。嫌だつたらいいんだ、嫌な事を思いださせるだろつから。」

雅「…………。 わかりました。 すべてをお話します。」

岬「ありがと。 本当にすまん。」

雅「いえいえ、私は岬さんのためならなんでもしますから。」

岬「ありがと。 雅。」

本当にありがとう雅お前も嫌だろうに俺のために…。

異常な世界 十一話（後書き）

棗「今日は俺が次回の説明みたいだなー。」

次回

岬と空さん、そして俺たち双子の過去がわかる。  
昔いつたい何があったのか?  
すべては次回でー!  
ちゃんと見ろよーー!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6252x/>

異常な世界 男子高の物語でBL要素満点ですww

2011年11月26日17時50分発行